

これからの活動

商店街がSDGsに取り組む その狙いと効果

現在、全国各地でSDGsに取り組む商店街が増えています。では、商店街がSDGsに取り組むことで、どのような効果が期待されているのでしょうか。

商店街の役割は、消費者に必要な商品を提供するだけではありません。地域の人々のつながりを生み出す場であり、まちづくりに貢献する重要な存在です。また、各店舗では、食品ロスの削減やプラスチック容器の使用削減、働きやすい職場環境づくり、住民の健康促進など、さまざまな工夫が行われています。これらの取り組みは、SDGsが掲げる個別の目標に合致しています。これらは、商店街の「社会的役割」として位置づけることができます。

全国で展開されている「商店街×SDGs」の活動は、こうした商店街の各店舗が日々行っていることをSDGsの目標に照らして“見える化”することから始まります。これによって、商店街の「社会的役割」が共有され、SDGsの掲げる「誰もが幸せに暮らせる地域づくり」を、商店街と地域が一緒になって目指すことが期待されています。

参考資料：全国商店街振興組合連合会『「SDGs×商店街」の普及・促進に向けて』2022年

梯輝元『減びない商店街のつくりかたーリノベーションまちづくり・エリアマネジメント・SDGsー』学芸出版社、2022年

岡本商店街振興組合「SDGs部会」の今後の取り組み

フードロスロッカーの設置や地域創生アプリの導入を進めることにより、食品ロス削減と地域のにぎわいづくりを両立するような具体的な計画を立てています。

「KOBE SDGsマルシェ」（12月7日、甲南大学にて開催）でフードロスロッカーや地域創生アプリの紹介をする予定です。

Pickup 岡本商店街振興組合×CiPPo株式会社 横山哲也氏による講演報告（6/20）

授業でゲストスピーカーとしてCiPPo株式会社の横山さんにお話をいただきました。横山さんは、現在に至るまでたくさんの経歴をおもちで飲食業からIT、アプリの開発や事業、ボランティアにあたるまで様々なことをなされていました。特に現在wakeatte という社会問題の1つである食品ロスに立ち向かう事業をされています。この事業の概要は、空きスペースにロッカーを設置し、飲食店で出た食品ロスをロッカーに入れ、割引をして販売し、その仲介としてアプリが使用されるというものです。



この食品ロスに対する画期的な事業は、大変中身の濃いものだと感じました。ロッカーに食品を入れ、3時間保存するのですが、その残り1時間になると生活困窮者に無料で提供されます。この取り組みは食品ロス解決だけでなく、貧困をなくそうというSDGsの目標にも取り組まれており、QRコードを介してロッカーから食品を取り出すので、プライバシーも守られているという点では、たくさんの人のことをその人、その人に合った立場で物事を見ており、画期的なアプリですが、それだけでなく、柔軟でかつ優しいものだと感じました。またプロジェクトを運営していく中で、全てが最初からうまくいくことではなく、やってみる中で課題に気がつき、その課題をクリアしていくことの重要性が感じられました。（文：STAGE 2年 岡山奈津希）

第2回 KOBE SDGs マルシェ
2025年12月7日（日曜日）11:00-15:00 入場無料
甲南大学岡本キャンパス iCommons
（阪急岡本駅、JR阪神本山駅から徒歩約10分）
約40のSDGsチャレンジブースが集合！ 名物天津飯も キッチンカーも
主催 一般社団法人 大学都市神戸産官学プラットフォーム 共催 甲南大学 神戸学院大学 神戸大学

Bulala新聞



2025年秋SDGs特別号

Topic 1. 岡本商店街振興組合SDGs部会と甲南大学STAGEとのコラボ企画

Topic 2. 甲南大学STAGE生によるインタビュー「その取り組みはSDGsのゴール〇〇に貢献しています！」

Topic 3. 岡本商店街振興組合SDGs部会の今後の活動

岡本商店街振興組合SDGs部会×甲南大学グローバル教養学環 コラボプロジェクト始動！



2025年度、岡本商店街振興組合SDGs部会と、甲南大学グローバル教養学環（STAGE：Special Track for Accelerated Global Education）の専門科目「グローバル実践プロジェクト」による連携がスタートしました！この「Bulala新聞SDGs特別号」では、プロジェクトの活動をご報告します。

編集：「グローバル実践プロジェクト」担当教員
（千葉美保子、久保はるか、山本シャーリ）

発行日：2025年11月

岡本商店街振興組合

電話番号：078-412-3096

Mail：info@kobe-okamoto.org

住所：〒658-0072

兵庫県神戸市東灘区岡本1丁目14-14



ホームページ



Google map



Instagram





岡本商店街振興組合「SDGs部会」について

岡本商店街では、地域と未来をつなぐ取り組みを進めるために「SDGs部会」を立ち上げました。環境や人材育成、地域交流をテーマに、大学や行政、地域のみなさんと力を合わせながら、買い物やイベントを通じて、SDGsをもっと身近に感じてもらえる活動をしています。

岡本商店街SDG s 部会立ち上げの目的と意義

- ◎SDG s の導入による岡本商店街全体の活性化
- ◎加盟店同士のつながり強化
- ◎外部・地域連携の強化
- ◎岡本商店街の中長期ビジョンと戦略策定
- ◎ブランド力の強化

誰一人取り残さない社会を実現している優しい岡本の街

ブララと歩くだけで優しくなれる岡本の街

次世代のことを考えながら発展する魅力的な商店街

※SDGs（持続可能な開発目標）とは、2015年9月国連総会で採択された、2030年までに持続可能な社会を目指す国際目標です。17の目標・169のターゲットから構成されます。

甲南大学グローバル教養学環「グローバル実践プロジェクトI」との連携

甲南大学グローバル教養学環（通称：STAGE）は、2024年4月に開設した新しい学位プログラムです。国際社会で通用する能力やグローバルな視点や経験を有し、地域社会や経済の活性化ならびに持続的発展に貢献する人材の育成を目指しています。今回、2年次の専門科目「グローバル実践プロジェクトI」において、岡本商店街振興組合SDGs部会との連携のもとプロジェクトを実施しました。「SDGsを足がかりに、岡本商店街として

のブランディング、まとまりを作りたい」というお題のもと、5月下旬から7週間にかけて活動を行い、岡本商店街振興組合加盟店3店舗へのインタビュー、インタビュー記事の作成、活動を通じた成果としてのSDGsを視点とした提案行いました。次のページからは、学生たちによるインタビュー記事をお届けいたします！



5月23日

プロジェクト開始に先立ち、甲南大学卒業生で、ホテルニューアワジグループの田村 嘉章氏からの講演、プロジェクトの事前学習を実施しました。

5月30日

岡本商店街振興組合「SDGs部会」の阪部理事・松尾理事、小城事務局長から、岡本商店街の歴史や課題について学び、フィールドワークを実施しました。

6月~7月

グループごとに協力いただいた各店舗へインタビューを行い、インタビュー記事を作成するとともに、SDGsの視点から商店街への提案を検討しました。

6月20日

CiPPo株式会社の横山哲也氏による講演を受け、学びを深めました。（講演報告を裏表紙に掲載しています！）

7月4日

中間報告では甲南学園広報部の長谷川裕晃さんに記事のまとめ方についてアドバイスをいただきました！



Interview



HAND IN HAND

VENUE OKAMOTO ANNEX

取材日時: 2025.06.13(金)

橋谷さんの軌跡

今回は岡本商店街にある雑貨屋HAND IN HANDの店主 橋谷惟子（はしたに・のぶこ）さんにお話を伺い、岡本への思いを取材させていただきました。阪急岡本駅からまっすぐ歩くとある小さな雑貨店HAND IN HANDは、1977年から開業され2027年には開業して半世紀経つお店です。開業前、店主の橋谷さんは小学校教員をされており一時期は教員最終面接官として教員採用にも尽力されていたそうです。橋谷さんは人と人との繋がりを大切にされる方で、店名のHAND IN HANDにも作り手と使い手を横に繋ぎ、店で街に貢献したいという思いを込めて名付けられました。また、以下の見出しは、私たちがインタビューを聞いて、達成していると感じたSDGsの目標に沿って本文を作成しています。



インタビュー取材、文・編集：
稲垣秀介・岡山奈津希・奥井奏心・藤田小雪



SDGs 目標 8 「働きがいも経済成長も」

お客さんとの関係はもちろんです、橋谷さんはHAND IN HANDで働いている従業員との信頼関係も大切にされています。時には従業員に厳しく伝えることもあるそうですが、従業員の皆さんとの間に信頼関係があるからこそできることのように感じました。ほかにも、HAND IN HANDのレシートには「不良品以外、返品交換お断り」と記載されており、ここには橋谷さんの「お金と商品を交換した時点でお客様のものになり、中古品になる」という考え方が反映されており、プライドをもって小売業をなさっていることがわかります。



SDGs 目標 11 「住み続けられるまちづくりを」

これまでHAND IN HANDでは、立ち飲みイベントや泡の会、バルーンプレゼントなど、さまざまなイベントを主催してきました。中でも立ち飲みイベントは一般的な酒屋で開催されるものとは異なり、女性のお客様の参加が多いことが特徴です。また、男性のお客様は一人で来られるというよりも、お二人連れで参加される方が多いそうです。これらのイベントを通じて、HAND IN HANDならではの人と人とのつながりを生み出してきました。

さらに、HAND IN HANDに加えて、「この場所が一人ひとりにとっての別館（ANNEX）であり、集まり（VENUE）の場となってほしい」という思いから、新たにレンタルスペース「VENUE OKAMOTO ANNEX」を開設されました。この空間が、さまざまな人の出会いや活動の場として、さらに多くのつながりを作ります。

SDGs 目標 12 「つくる責任、つかう責任」

HAND IN HANDではバーゲンブックと呼ばれる本を販売しています。バーゲンブックとは、中古本とは異なり、書店で発売されてから一定期間経過した新品の本を定価の半額以下の値段で再販売することです。「バーゲンブックを扱っている商社があって、それを店長が見つけて取り扱っています。書店ではわき役として売られているちょっとニッチな商品や子ども向けの洋書などを扱っています。」と橋谷さんはおっしゃっていました。「まだ使えるモノを捨てる」というロスを削減し、本を再流通させることは、「つくる責任、つかう責任」というSDGsの目標の内、生産者の責任を果たすことにつながっています。また、岡本の人に合う本を選ぶことで、つかう側の「モノを大切につかう消費行動」の責任を果たすことにもつながっています。

SDGs 目標 14 「海の豊かさを守ろう」、SDGs 目標 15 「陸の豊かさも守ろう」



神戸ローカルな商品について質問をすると、「（お店を始めて）15、16年頃からちょっとずつ、さらに今は店長の想いで、『地場をやりたい』地場でも『神戸やりたい』神戸でも『本山やりたい』という想いがあるね。うちのような小さい店と付き合ってくださる優しいメーカーさんを探しています。」というこの街に対する温かい想いやその経緯をお話くださいました。地域に根ざした商品販売することは、輸送コストや排気ガスを低減させることにつながり、これはまさにSDGsの「海（陸）の豊かさを守ろう」というゴールに向けた対策なのです。岡本を思う気持ちがさらに良い街にする活動の一環になっているということをお話から知ることができました。

岡本のこれから

インタビューの中で橋谷さんは、岡本の人々のつながりを大切に考えておられました。強いつながりを作ることで、HAND IN HANDの50周年を機に、より活性化した岡本の街を目指したいとおっしゃられていました。学生の取り組みにご期待されていたので、岡本の大学と岡本商店街のつながりが、これを機に深くなっていきます！



今回は、オーナーの阪部剛規（さかべ・たけのり）さんにお話を伺い、その想いと取り組みについて深く知ることができました。

ベジカフェ greenfield
～地域の笑顔を支えるカフェ～

実際にベジカフェ greenfieldにお料理を食べに伺いました。実際にお店に入ってみると商店街のにぎやかな雰囲気と違って落ち着いた雰囲気でした。スタッフの方々もニコニコしており、とても楽しい雰囲気です。伺った日のメニューは和食、カレー、グラタンの3種類でした。今回はカレーをいただきました。野菜が見たことないほどの量が使われており、見た目にとってもインパクトがありました。これらの野菜はとても新鮮で柔らかく噛みやすかったため、若者からご老人まで食べやすいと思いました。

オーナーである阪部さんの思い ～健康へのこだわり～

阪部さんがこのカフェで大切にしているのは、「岡本に住んでいる人々に幸せになってもらうこと」。そのために、まず“食”の面から健康づくりを支えようと、ベジカフェ greenfieldでは新鮮で旬の野菜や果物をたっぷり使った料理を提供しています。普段の食生活で不足しがちなビタミンやミネラルなどの栄養素を、美味しく手軽に摂れるよう工夫されており、まさに体の内側から健康をサポートしてくれる場所です。さらに、使用する食材は季節ごとに変わり、訪れるたびに新しい味わいや季節の移ろいを感じられるのもこのカフェの魅力の一つです。

ベジカフェ greenfield
取材日時: 2025.06.11(水)



インタビュー取材、文・編集：
宇原幸希・小沢紫音・前田奈那・石原美杏・熱田花音

食品ロスの削減～訳あり野菜にも価値はある～

売れ残ったり、見た目に少し難があったりする“訳あり野菜”も無駄にせず、ひとまとめにしてお得に販売するなど、食品ロスの削減にも積極的に取り組んでいます。この取り組みはSDGsの目標12である「つくる責任、つかう責任」につながっていると思います。規格外や売れ残った野菜を無駄にせず、有効的に活用することで持続可能な生産と消費に貢献しています。



地域貢献活動～人とつながれる場所を～

阪部さんは、地域貢献活動にも力を入れており、特に50代以上の世代を対象にした活動が充実しています。たとえば、健康維持と交流を兼ねたノルディックウォーキングの開催を行っています。また、定年退職後の男性をターゲットに男の料理教室を行っています。仕事がなくなることによって人と接する機会が少なくなり社会から孤立することを危惧し、地域に住む人々が無理なく参加できる機会を提供しています。これらの活動を通して、年齢を重ねても社会とのつながりを保ち、自分らしく生きることができると地域社会の実現を目指しています。この取り組みはSDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」および目標11「住み続けられるまちづくりを」につながっていると思います。

今後の岡本商店街への展望～学びの輪を広げるために～

最後に、今後の岡本商店街についての展望を尋ねると、「街全体で学べるような環境ができると嬉しい」と阪部さんは語ってくださいました。ベジカフェ greenfieldをはじめ、様々なお店や人々が知識や経験を共有できる“学びのコミュニティ”が地域に広がっていくことで、岡本という街の新たな魅力が生まれることでしょう。この取り組みはSDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」につながっていると思います。

ベジカフェ greenfieldは、健康と人と人をつなぐ場所として、これからも地域に根ざした活動を続けていくはずです。その温かい空間は、訪れる人々にとって「食べること」以上の価値を与えてくれる場所となっています。



森栄商事株式会社

取材日時: 2025.06.10(火)



今回は、2025年6月10日(火)に、森栄商事株式会社の松尾紀明（まつお・のりあき）さんにインタビューをさせていただきました。

森栄商事について

松尾さんは防災士などの資格をお持ちで、防災意識の向上にも力を入れておられ、地域社会への貢献を大切にされています。松尾さんの所属されている森栄商事株式会社は、神戸市東灘区に本社を構え、不動産の賃貸や管理を中心とした事業を行っています。地域に根ざした信頼と実績を大切に、安心できる不動産サービスを提供しています。



岡本商店街のシンボル

岡本商店街の石畳は20年以上前に作られました。商店街の中には防災やバリアフリーの観点から、石畳をなくすべきという考えと、今まで大切にされてきた“岡本商店街”というブランドを守るべきという考えがあると松尾さんに教えていただきました。災害などが起こった際に、石畳の歩きにくさは市民の方の避難の遅れにつながります。また災害時以外の日常生活の中でも、車いすの方や高齢の方の不便にもつながる可能性があります。他にも様々な理由があって、現在では「石畳風」への移行が進んでいるそうです。

自分ごとにするために

松尾さんが防災にこだわる理由は、岡本商店街も大きな被害にあった阪神淡路大震災の経験にあります。松尾さんは、「いつ、どこで起こってもおかしくない災害に岡本商店街に関わる全ての人に自分ごとになって考えてほしい」という思いを持っていらっしゃいます。また、より多くの人に自分ごとになってもらうために、岡本商店街全体での防災訓練の必要性を感じていらっしゃいます。

今後と防災

岡本商店街全体での防災訓練の必要性を感じていらっしゃる一方で、学生を含めた人との関わりが減少しています。松尾さんは、この現状を改善し、人同士の繋がりを増やしたいと考えていらっしゃいます。学生を含む多くの人と繋がりを持つことは、岡本商店街の防災に繋がるのが期待されます。 **この考え方は、SDGsの目標17「パートナーシップで目標を達成しよう」につながっていると思います。**



インタビュー取材、文・編集：
垣内陽成・厚東満帆・吉次勇也フィリップ・柿本幸樹

歴史ある"岡本商店街"

岡本商店街は100年を超える歴史を持つ商店街です。特徴として、その景観や石畳の道路が挙げられます。新しく建設するビルの色や高さに制限が設けられており、景観の保持・統一に力を入れています。また松尾さんは、新しく入る店舗の事業内容や客層の統一による、岡本に合う雰囲気作りに取り組んでいます。歴史ある"岡本商店街"のブランディングの保持に尽力されています。



まとめ

今回のインタビューを通して、松尾さんは岡本商店街に関わる全ての人に寄り添ったに地にするべく、防災意識向上や岡本商店街の魅力・景観維持に尽力されていらっしゃるのことがわかりました。森栄商事、松尾さんが考える、景観の保持やバリアフリー、防災に対する意識は、**SDGsの目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」、目標11「住み続けられるまちづくりを」につながっています。**そこで、岡本商店街ではだれも取り残さない持続可能なまちづくりがすすめられています。

プロジェクト成果報告会

日時: 2025.07.18(金) 場所: 好文園ホール



プロジェクトの成果報告会を好文園ホールにて実施しました。7週間にわたりプロジェクトに取り組んだ3チームが、担当した取材結果と活動を通じた成果としてSDGsを視点とした提案の発表を行いました。各グループともインタビュー取材の結果を記事をもとに報告し、森栄商事株式会社班からは岡本商店街防災マップ製作、HAND IN HAND班からは橋谷さんの体験をお聞きするイベント企画、そしてgreenfield班では商店街と健康に関するビンゴカードの提案を行いました。発表ののち、甲南大学卒業生であり、第7回授業のゲストスピーカーとして学生にレクチャーをいただいたホテルニューアワジ田村嘉章氏より発表への講評をいただきました。また、岡本商店街振興組合SDGs部会の羅川理事、阪部理事、小城事務局長からのコメントのほか、甲南大学教職員のみなさんからも様々な質問やコメントをいただきました。今後は提案をさらにブラッシュアップし、実現に向けての活動を検討していきます。ご参加いただいたみなさまありがとうございました。



成果報告会感想・メッセージ

♡♡♡

『SDGsを足がかりに、岡本商店街としてのブランディング、まとまりを作りたい』という難しいお題に対して、3チームともに、真剣に考え、しっかり具体的な提案を出してくれました。加盟店それぞれの「良きこと」がSDGs活動であること、柔軟な楽しい発想でSDGs活動を推進できることを気づかせてもらえ、感謝しています。（岡本商店街振興組合SDGs部会）

私も学生時代の4年間お世話になり、また親しみと愛着のある岡本商店街振興プロジェクトに関わる機会をいただき大変ありがたく感謝申し上げます。講評の際にお伝えしたキーワード「共感」。今回のプロジェクトにも、そしてこれからの社会にも必要不可欠なワードかと思います。私は「旅行」を通じて、淡路島にお越しになるお客様に、元気に、そして笑顔なって頂きたいという思いでお迎えしています。お客様・商店街・お取引先の三方が「共感」し合い、商店街に集う誰もが元気に、そして笑顔になれる「場作り」と三方良しの「関係作り」が大切です。あそこに行けば元気になる、笑顔になれる・・・そんな「心と生活が豊かになれる 商店街」になるよう“代々受け継がれた甲南スピリッツ”で盛り上げていただきたいと思います。（甲南大学卒業生・ホテルニューアワジ別荘 淡路夢泉景 夢泉景別荘天原 支配人 田村 嘉章）

学生の学びの新たな可能性を拓く

甲南大学で2024年度から新しく始まったグローバル教養学環STAGEでは、グローバルな視野や体験を元に地域の活性化や持続的発展につないでいくための「グローバル実践プロジェクト」という科目を設定しています。今年度の学生による成果発表会が7月18日に岡本好文園ホールで開催されました。森栄商事さま、HAND IN HANDさま、ベジカフェgreenfieldさまからテーマをいただき、学生たちは3つのグループに分かれて、若者ならではの視点も交えて岡本商店街の今後の展望などを語りました。人と人のつながり、商品の物語性、街の景色や表情の移り変わりなど、それぞれ岡本商店街への思いがこもった発表で、参加者に感銘を与えてくれました。ご協力くださった関係者のみなさまに心より御礼申し上げます。今後もこうした地域連携の取り組みが発展していきますことを願っております。（甲南大学グローバル教養学環STAGE学環長 野村和宏）

この度は、岡本商店街振興組合の皆さまに学生の学びの機会をいただき、心より感謝申し上げます。SDGsの観点で、それぞれのお店の魅力や地域とのつながりを見つめ直す中で、学生たちは多くの気づきや学びを得ることができました。実際に人や物事に触れることで学びを深化させ、地域と大学の双方が成長していく、その一歩となったことを嬉しく思います。今後も継続的な連携を通じて、共に岡本の未来を創っていただけることを願っています。（甲南大学社会連携機構事務室（地域連携センター））